

# かぜとお 風透る屋根の下で

KK00003637



1/40 断面図

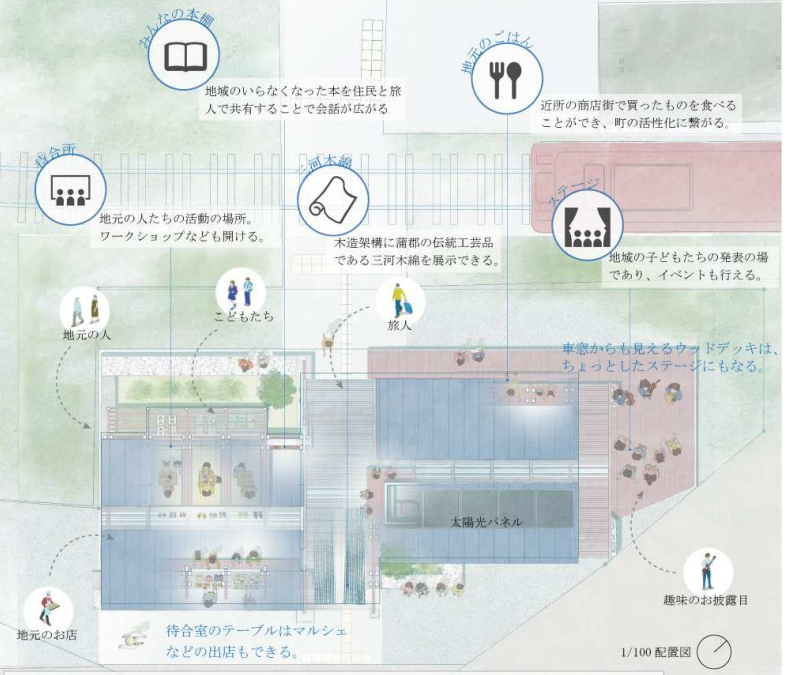
## 木かげのような光をつくる屋根

二重の登り梁の裏表に、細いルーバーを三重に取り付ける。トップライトから入った光を細いルーバーが拡散させることで太陽光が直接床に届く量を低減し、光を取り入れながらも、観光客の増える夏期でも心地よい熱環境をつくる。

## 安心感のある深い小屋裏

深い勾配のある小屋裏によって、包まれるような安心感のある待合室をつくる。空を見上げる屋根の背もたれや畳の小上がりとして屋根の軒下を室内に取り込む。

西浦の環境の価値を引き出す屋根。木の層が重なることで心地よい木かげや光が現れる。旅人を温かく迎えられる待合所であり、住人にとっては寄り添いたくなる待合所である。外と内のコミュニティが自然に絡まり合い、西浦駅は人々の記憶に残っていく。



## ハレの日をつくる小さな舞台

西浦のまちの活動と連携し、旅人と住み人が交差するネットワークの中継点となるような小さな舞台の場をつくる。

1/100 配置図

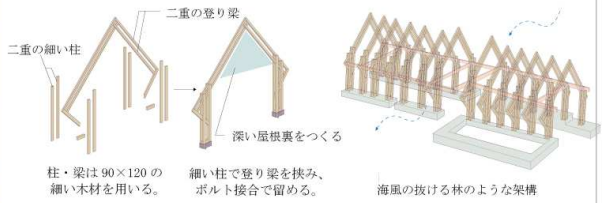
## 駅前全体の一体感をつくる配置



線路、駅のホーム、自転車置き場の屋根の向きに長手を合わせて配置することで、駅全体の一体感を生む。鉄道線路と同じ砂利敷きすることで、周辺との一体感をつくる。砂利の隙間から、季節に合わせた草花が広がる。

## 光と風の透ける架構

二重の柱・登り梁に細い材を用いることで繊細で軽やかな架構とし、海風の抜ける林のような空間をつくる。

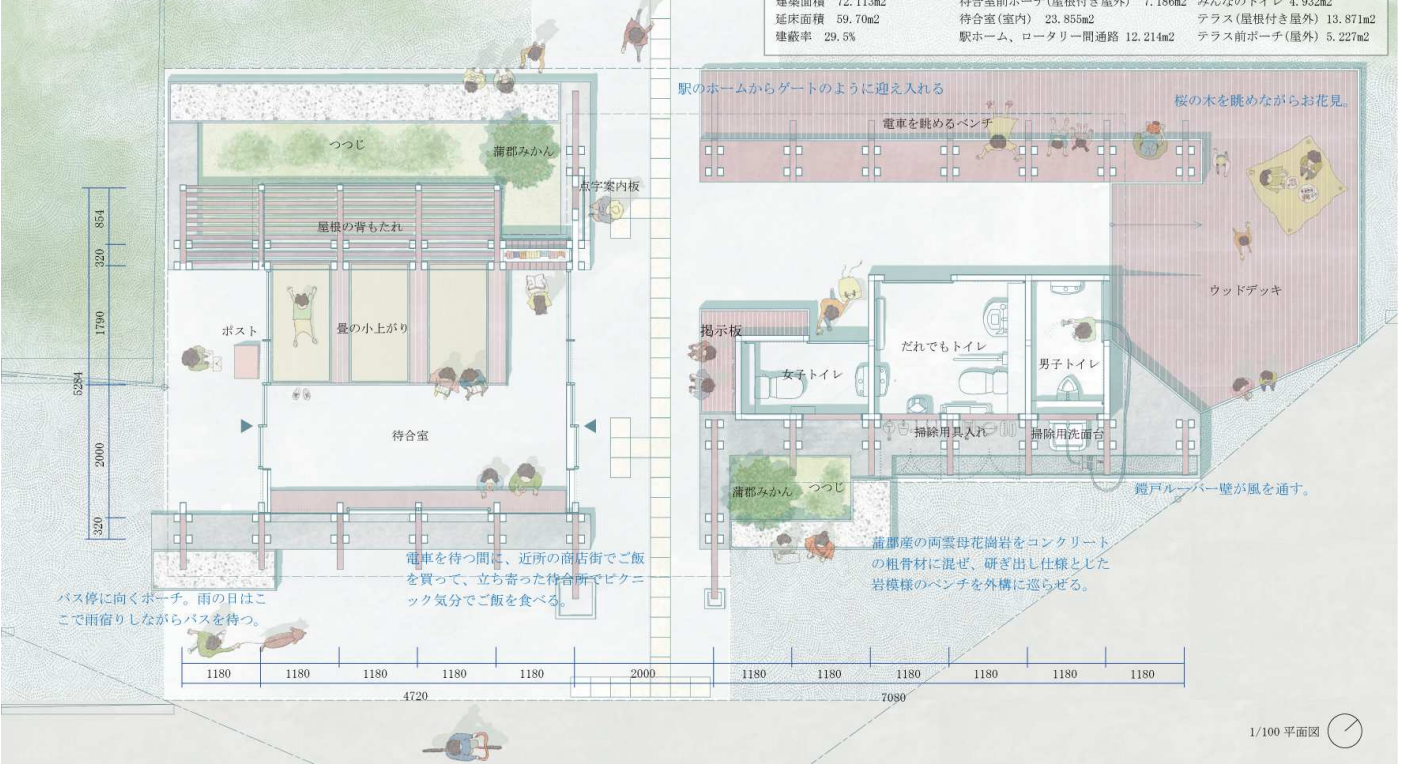


## 日常を包み込むさまざまな居場所

屋根の下に内・外をつくる。普段の待合室は、旅人を暖かく迎え、周辺に住む人の憩いの場となる。

### 面積表

敷地面積	244.40m <sup>2</sup>	容積率	24.43%	男子トイレ	2.36m <sup>2</sup>
コンペ対象敷地面積	211.88m <sup>2</sup>	各部面積		女子トイレ	2.36m <sup>2</sup>
建築面積	72.113m <sup>2</sup>	待合室前ポーチ(屋根付き屋外)	7.186m <sup>2</sup>	みんなのトイレ	4.932m <sup>2</sup>
延床面積	59.70m <sup>2</sup>	待合室(室内)	23.855m <sup>2</sup>	テラス(屋根付き屋外)	13.871m <sup>2</sup>
建蔽率	29.5%	駅ホーム、ロータリー間通路	12.214m <sup>2</sup>	テラス前ポーチ(屋外)	5.227m <sup>2</sup>

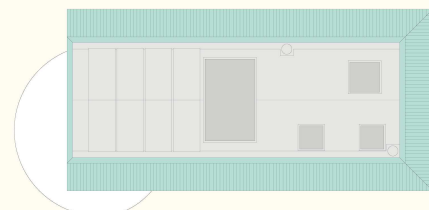
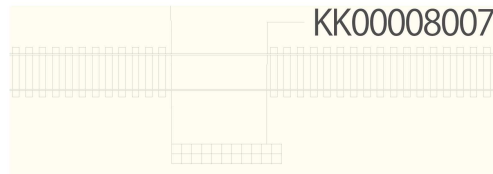


1/100 平面図

# ふくらむ まちの 待合所

いま、電車を待っている自分のその先で、待つだけではない別の可能性や、地元の人たち、温泉にやって来た家族、周りの家々や、海、山、西浦のまちと、つながることができる。そして待つだけではない別の可能性や人と人の新しい交流が生まれ、西浦のまちの新たな表情に気づくことができます。

本設計は、そんな一人一人の多様な「まつ」がふくらみ、それを優しく包みこむ、新しい待合所の提案です。



配置図 1/100

建築概要	仕上
屋内面積 : 13.25㎡	床 : 土間コンクリートホゴテ仕上
待合スペース : 46.75㎡	外壁 : PB t=12.5+シナランパーコア
延床面積 : 60.00㎡	天井 : PB t=9.5+シナランパーコア
基礎 : べた基礎	緑台 : 構造用合板t=20+モルタルt=30
主要構造 : 木造	内壁 : PB t=12.5+タイル30角/PB
主要用途 : トイレ及び待合所	t=12.5+AEP

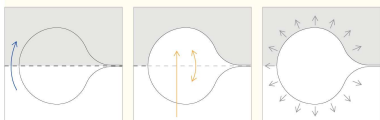
## 1. 縁が、ふくらむ

風船のように円く、大きな縁台には観光客も地元の住人も輪になるように腰を下ろすことができ、大の字で寝転ぶこともできます。また、大きなひとつの縁台をみんなで共有することによって、観光客や地元の住人を交えた、人と人のつながりが生まれます。縁台は道路側に大きく膨らみ、せり出すことで、まちに開かれ、西浦駅のユニークな顔になります。

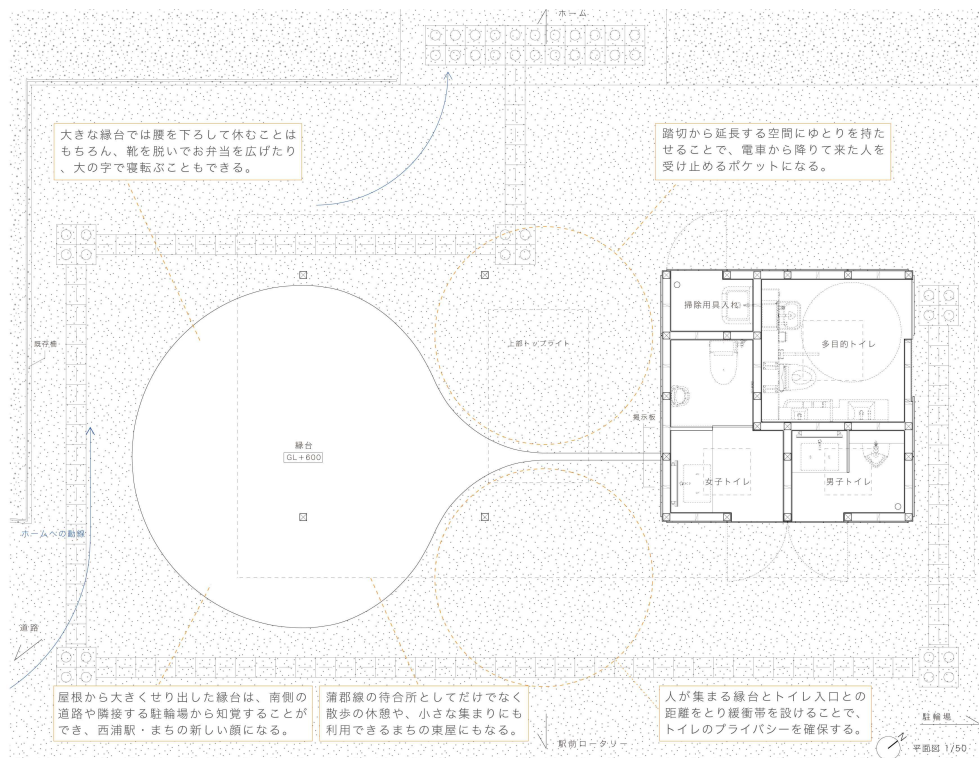


## 2. 想像が、ふくらむ

大きな縁台を既存のフェンスに近接させ、ホームへの動線が一箇所だけ狭まることでまちとホームの間、縁台の軸上に緩やかな境界が生まれ、駅という境域としての秩序を生みます。しかし靴を脱いで縁台に上がれば、想像上での境界を行き来することができます。縁台は、駅としての秩序を生みながら同時に、境域をつなく存在になります。



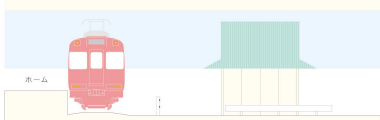
駅の役割として、まちとホーム（線路）の間に緩やかな境界を生む。 境界をまたぐ縁台の上では、自由に行き来することができる。 駅とまち、観光客や西浦の住人をつなぐ、大きな存在になる。



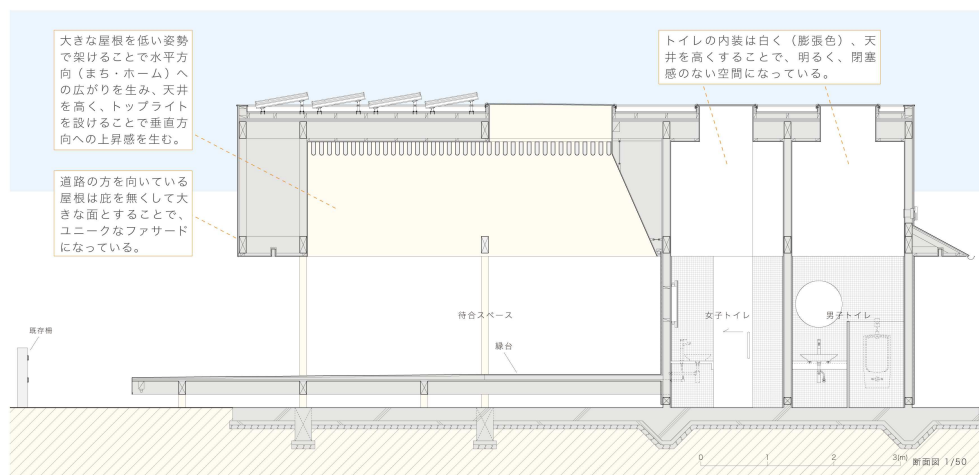
平面図 1/50

## 3. 居心地が、ふくらむ

両端に庇が付いた深い屋根のファサードはこれまでの西浦駅の佇まいを引き継ぎ、屋根の下はこれまでよりも天井を高くし、新たにトップライトを設けています。これによって大きくて明るい、そしてどこか懐かしい居心地の良さが生まれます。



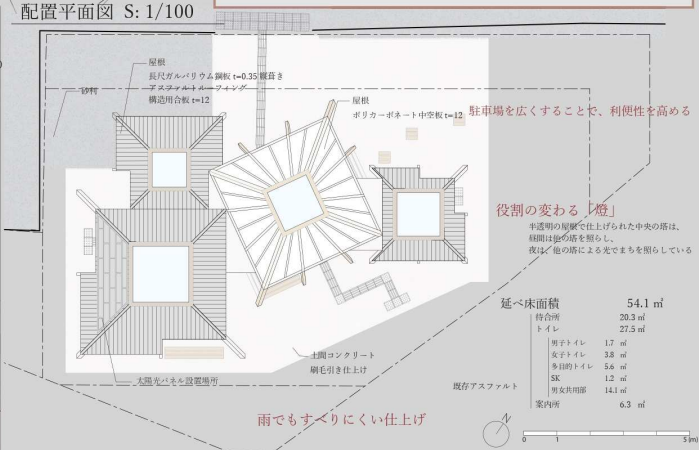
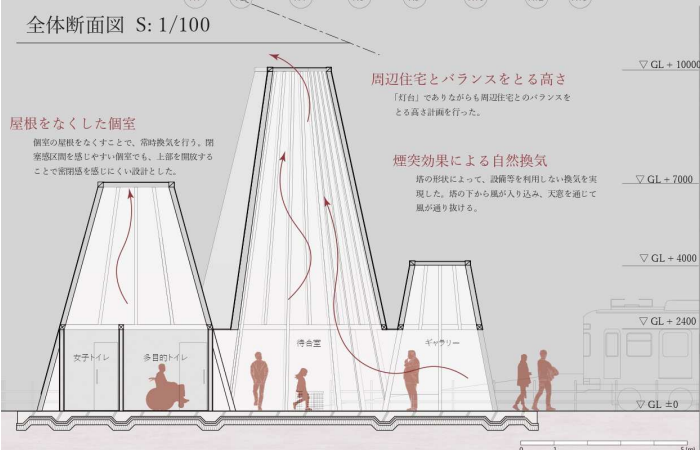
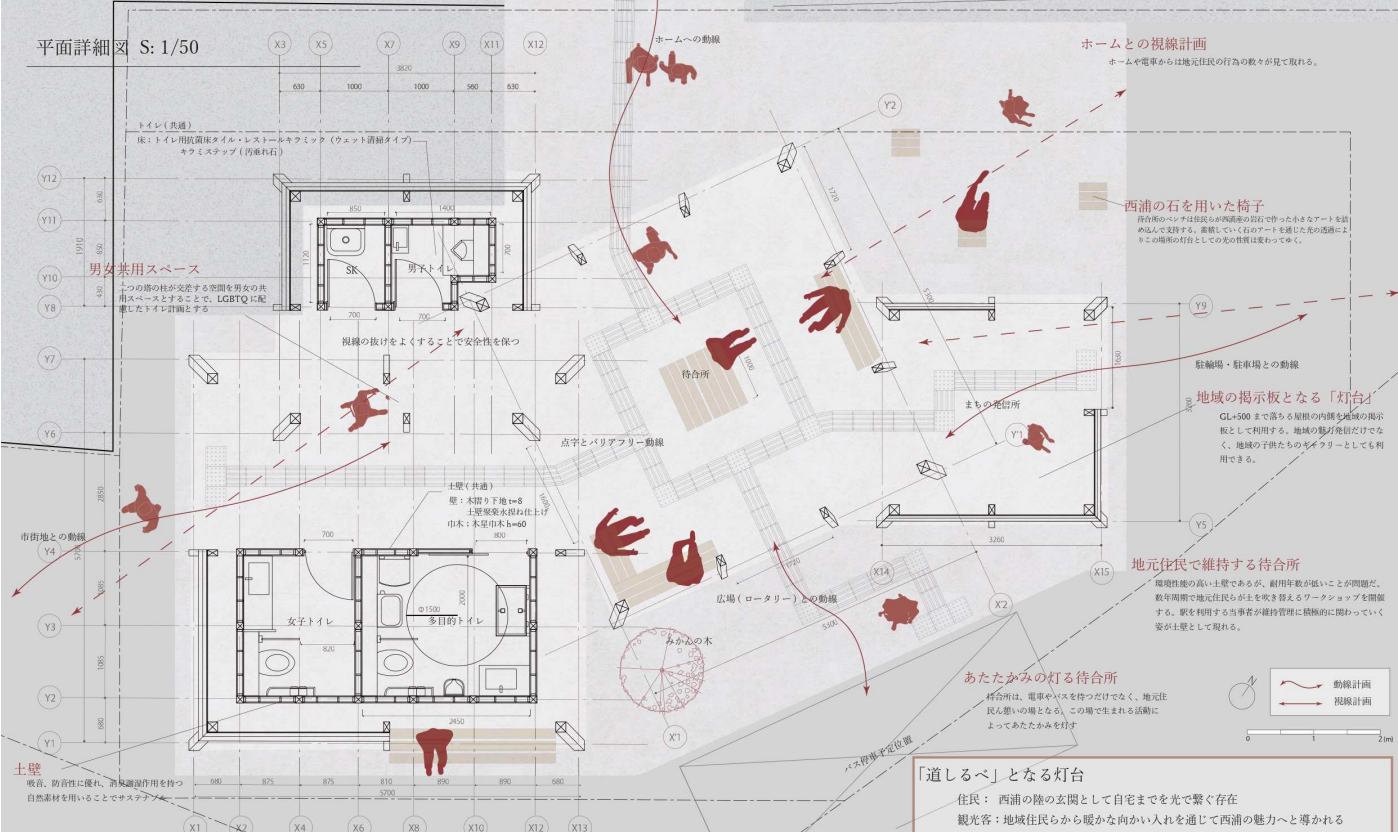
トイレの外壁を目地の白い縦方向の目透かしとすることで、縁台がトイレのボリュームから吹き出されているようにも、トイレにボリュームを吹き込んでいるようにも見えます。トイレと縁台の関係をつなぐことで、待合所全体として柔らかな印象と、裏表のない空間をつくっています。



断面図 1/50

# 燈に導かれて

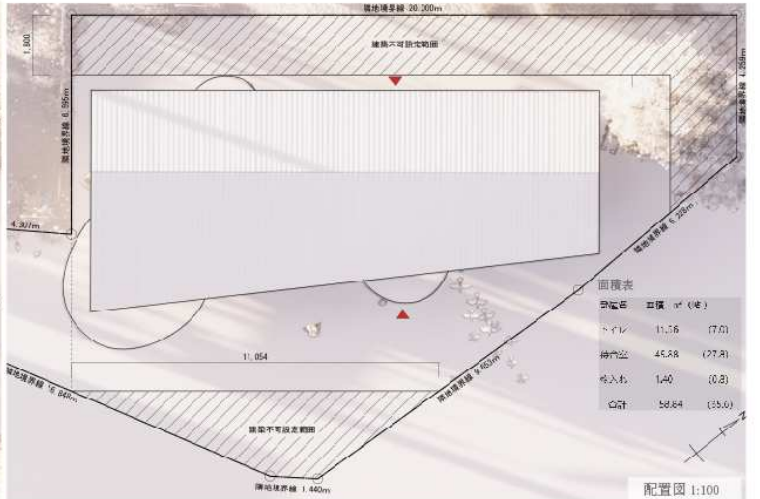
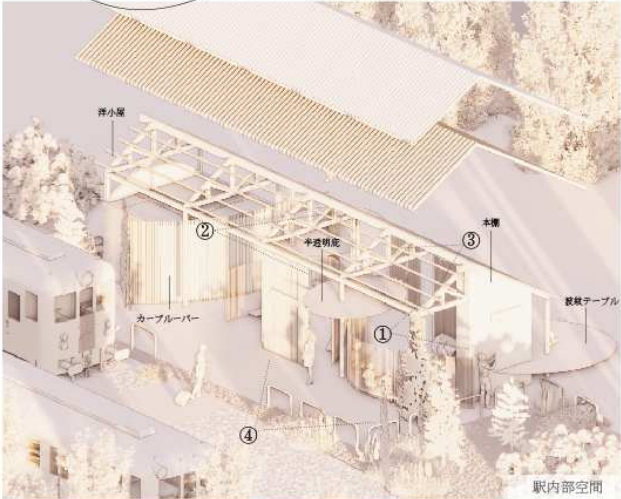
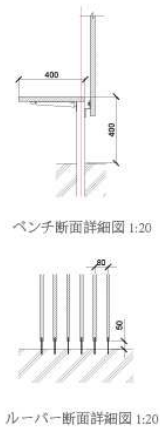
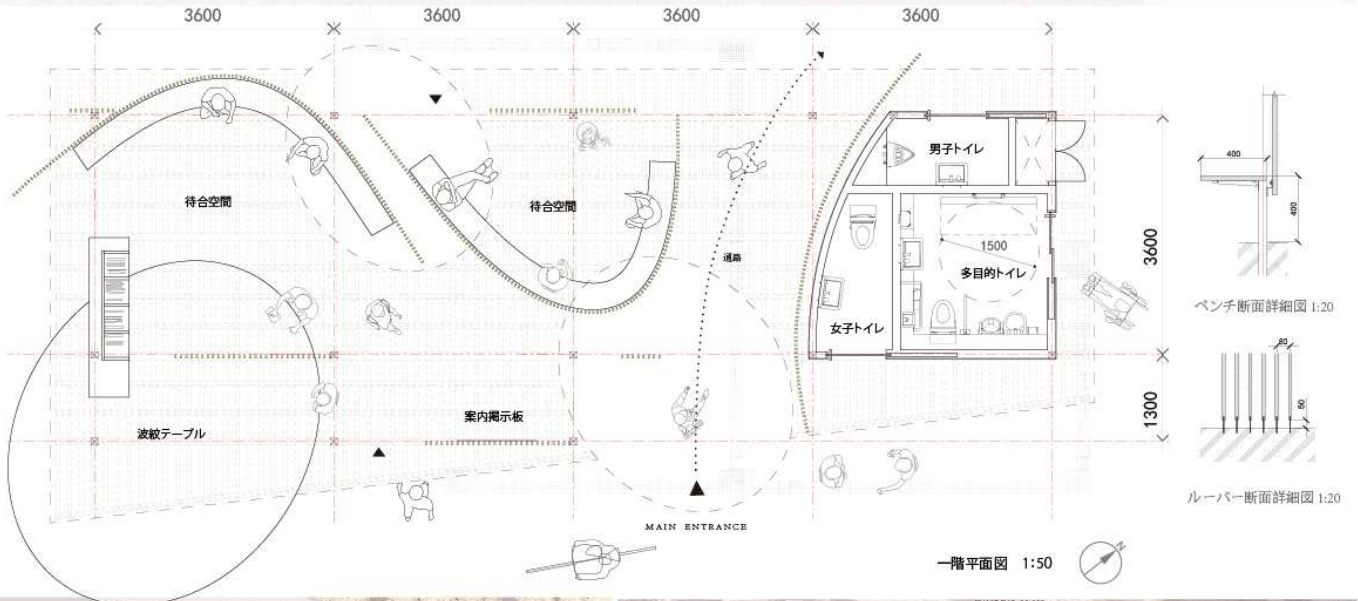
船や人を海から迎え入れる岬の灯台の光。対して町の陰側の灯台になり得る西浦駅。そこに帰ってきたときほっとする暖かな燈の抱擁を提案。燈となる半透明の塔と周りの小塔との光のやりとりによって親しみのある町の灯台になるとともに万人の暖かい道しるべとなる。



温泉との出会いを——西浦駅待合所デザイン

観光の名所である蒲郡市は海遊び、ドレージャ、海の幸、温泉スポットなど、長年多くの観光客に愛されてきた。特に西浦は温泉の看板として、その美しきの絶大さは万葉歌集にすら取り上げられていた。今回の西浦駅待合所計画では、西浦温泉などの魅力に注目し、その心象風景を駅待合所の空間に落とし込んで設計をした。電車を待つ行為とゆったりと温泉に染み込む行為と重ね合わせることで、電車待ちだけじゃない、リラックスと出会いの場となることを期待する。

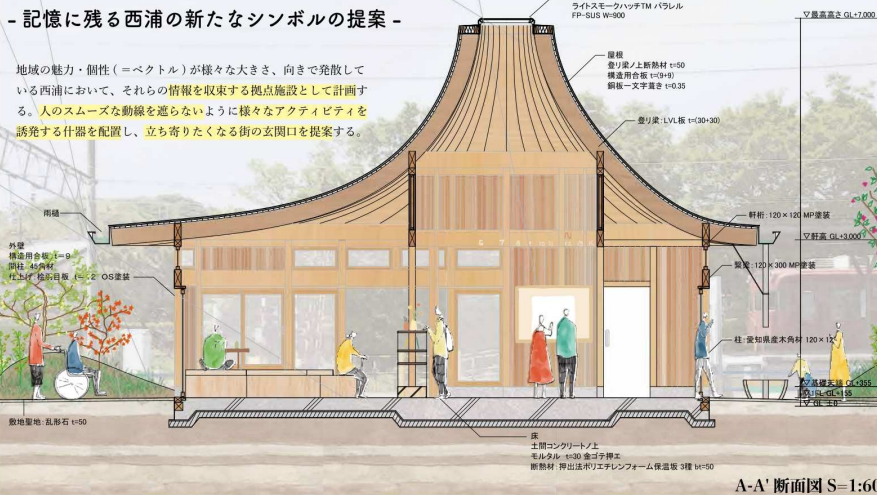
温泉：  
ぼやける霧による軒下空間  
水面に切り取られた風景。



# へえらっせ！にしうら！！！！

## - 記憶に残る西浦の新たなシンボルの提案 -

地域の魅力・個性（＝ベクトル）が様々な大きさ、向きで発散している西浦において、それらの情報を収束する拠点施設として計画する。人のスムーズな動線を遮らないように様々なアクティビティを誘発する仕器を配置し、立ち寄りたくなる街の玄関口を提案する。



A-A' 断面図 S=1:60



まちの玄関口となる待合所

まちの交流拠点となる滞在空間

フレキシブルなオープンスペース

### 端材でつくる多様な場を生む仕器

登り梁の端材 ハの字型仕器 多様な居場所をつくる

登り梁の作成で発生する LVL 板の端材を活用して待合所の仕器を作成する。モジュール化した「ハの字」形状の可動式仕器とし、1人から複数人まで多様な居場所づくりに貢献する。

### 日常清掃やメンテナンスへの配慮

換気 隅を取り、埃を溜めない曲面壁

排水 水はね等による足元の汚れ対策

コンクリートを500mm立ち上げ、水はねなどによる足元の汚れ対策をすることで、維持・管理に対して配慮する。



平面図 S=1:60

### 建物概要

■木造 平屋建て	
待合室	42.8 m <sup>2</sup>
多目的トイレ	6.7 m <sup>2</sup>
女子トイレ	2.4 m <sup>2</sup>
男子トイレ	2.2 m <sup>2</sup>
取納	1.1 m <sup>2</sup>
延べ床面積	55.2 m <sup>2</sup> (<60 m <sup>2</sup> )

### まちのかだんを整備

住民同士が交流するきっかけづくりの場として花壇を設ける。

### 西浦の魅力を見出し、発信する

西浦の魅力について話し合う市民ワークショップを実施し、その内容を魅力発信マップとしてまとめて待合所内に設置する。



情報発信の拠点「まちのまんなか」を象徴する日時計

一期一会の出会いが生まれる待合所

様々な利用者が集まる「まちの集会所」

## 01 リサーチ

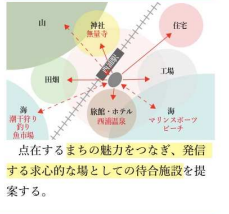
お友達と原に花壇をつくってみんなでお世話したわ。

昔の駅には売店があって、よく買い食いしたもんだよ。

みんなの思い出詰まった魅力あふれる場所なんだ！

学生

## 02 コンセプト

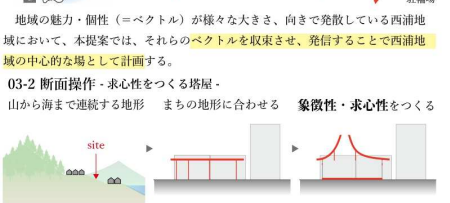


## 03 設計手法 - 西浦のシンボルとなる形態 -

03-1 平面操作 - 人を集め、つなぐ楕円形状 -

発散する西浦の個性 待合所に収束させる 待合所から発信する

地域の魅力・個性（＝ベクトル）が様々な大きさ、向きで発散している西浦地域において、本提案では、それらのベクトルを収束させ、発信することで西浦地域の中心的な場として計画する。

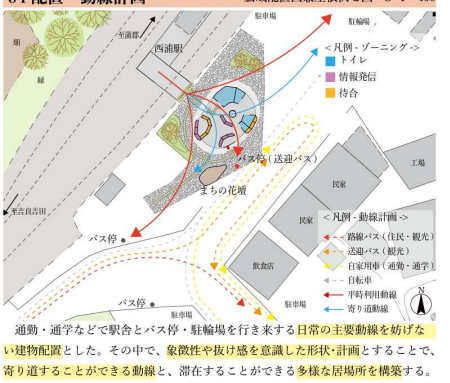


03-2 断面操作 - 求心性をつくる塔屋 -

山から海まで連続する地形 まちの地形に合わせる 象徴性・求心性をつくる

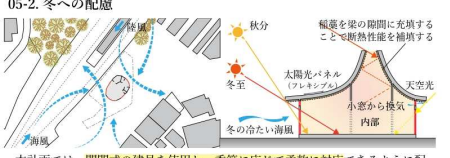
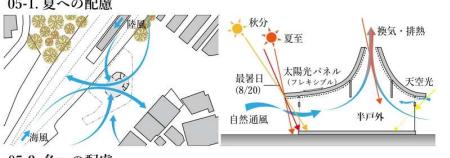
山から海へと続く地形と様々なスケールの建物の中に位置する待合施設において、周辺環境を背景として、塔屋のような象徴的な形状とすることでまちの玄関口として記憶に残る新しい風景をつくる。

## 04 配置・動線計画



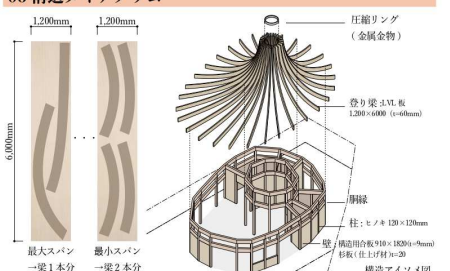
通学・通学などで駅舎とバス停・駐輪場を行き来する日常の主要動線を妨げない建物配置とした。その中で、象徴性や抜け感を意識した形状計画とすることで、寄り道することができる動線と、滞在することができる多様な居場所を構築する。

## 05 環境ダイアグラム - 建具と軒がつくる柔軟な環境 -



本計画では、開閉式の建具を使用し、季節に応じて柔軟に対応できるように配慮することで自然エネルギーを最大限に活用する環境計画とする。線路や街区沿いに流れる海風や陸風を、夏は積極的に取り入れ、冬は防げるようにする。

## 06 構造ダイアグラム

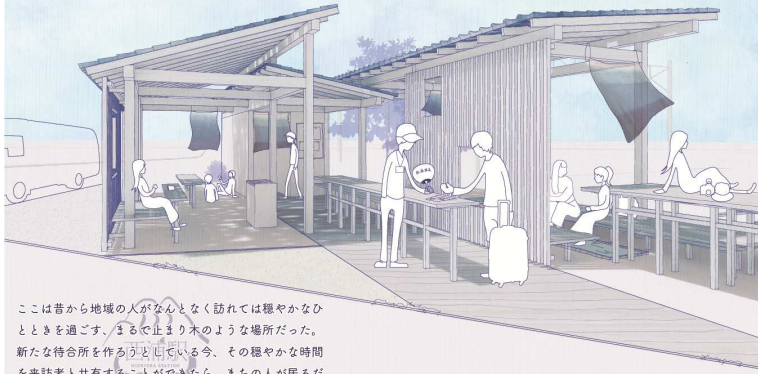


求心的な屋根形状を支える梁は、LVL板(規格サイズ1,200×6,000mm)をNCルーターで切り出した登り梁により構築する。30mm厚の板を二枚一組で使い、一枚の金属平板を介した相欠け継ぎとすることで大スパンに対応させる。登り梁の頂部は、圧縮リング(金属金物)を設けることで、現場での施工性に配慮した。また、登り梁以外の部材は、規格材のみで構築することで、コスト面にも配慮した。

# 故きを温ねて新しきを知る

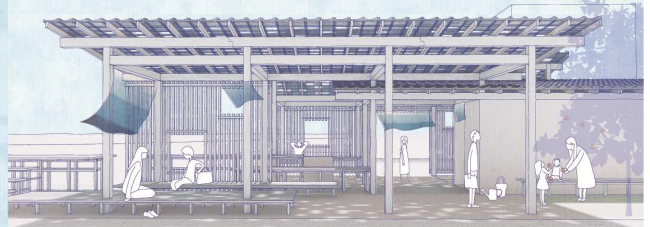
~ “昔ながら” と “新しい” が共存するまちの止まり木 ~

kk00024932



ここは昔から地域の人がなんとなく訪れては穏やかなひとときを過ごす、まるで止まり木のような場所だった。新たな待合所を作るうに、その穏やかな時間を来訪者と共有することができれば、まちの人が居るだけでこのまちの魅力がどれほど伝わるだろうか。

休日の昼、足達でつづく観光客と駐弁の人が居合わせる穏やかな空間。

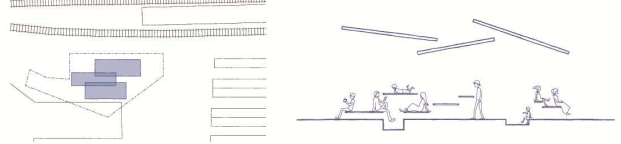


休日の朝、電車を待つひとみかんの人の世話をする人たち。



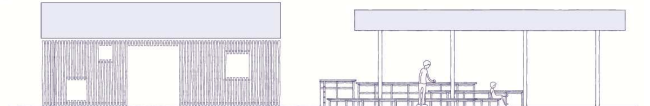
夜、光が漏れ出して暖かいカーテンの色が空に溶けていく。

Concept: 屋根・床・ファサードで人々の視線を操作し、心地良く共存できる建築

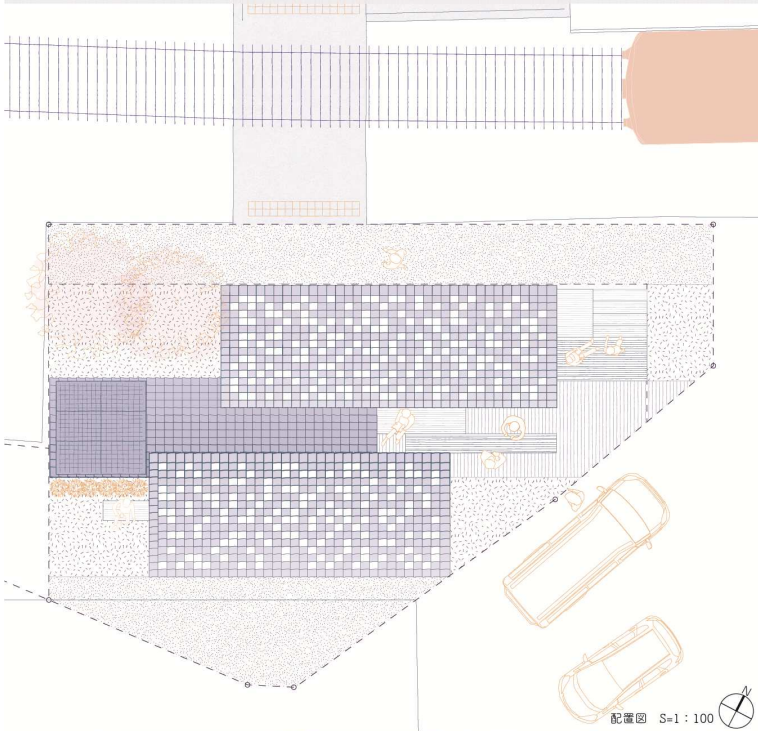


ホームと駐輪場の洗いに沿った屋根配置。

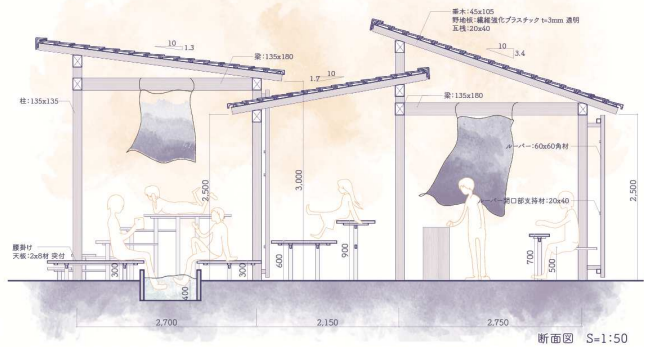
傾く屋根と高さの違う床で活動を誘発。



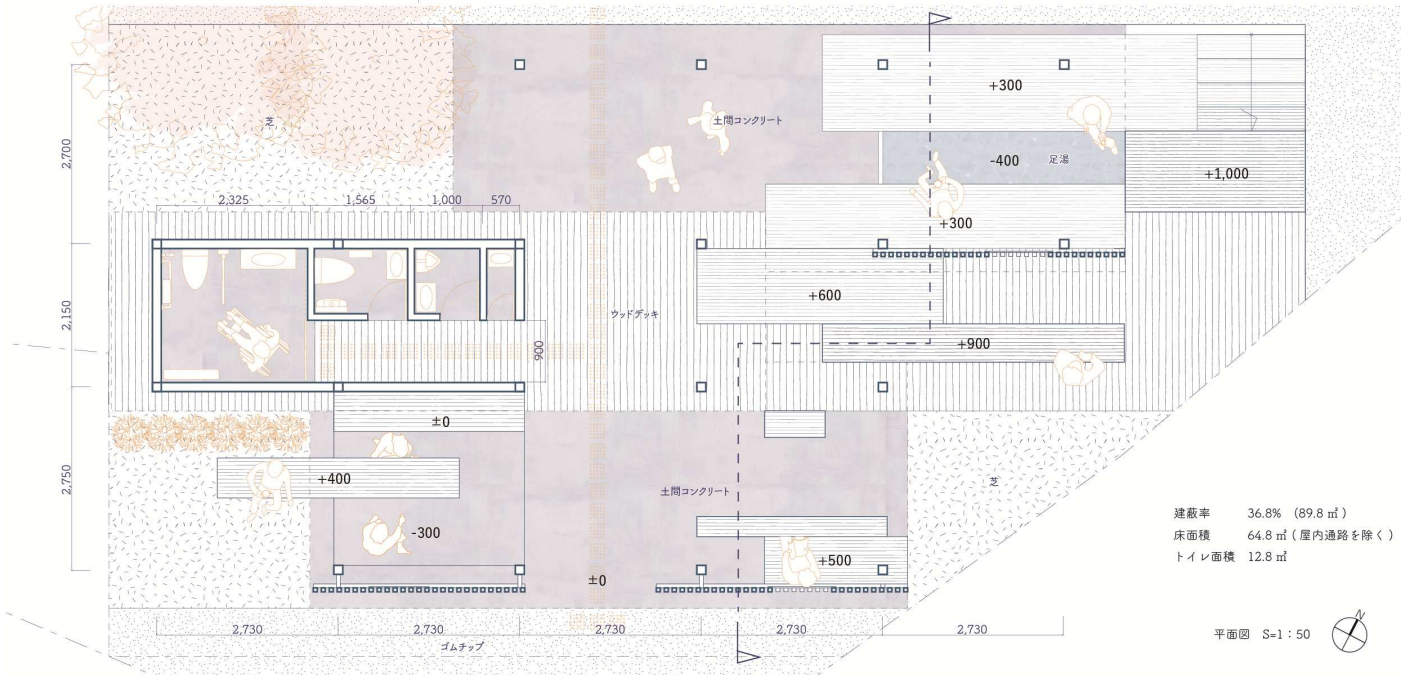
地域の人に旧駅舎を思い起こさせる南側と訪れる人に活動を見せる北側、2面性のあるファサード。



配置図 S=1:100



断面図 S=1:50



建蔽率 36.8% (89.8 m<sup>2</sup>)  
床面積 64.8 m<sup>2</sup> (屋内通路を除く)  
トイレ面積 12.8 m<sup>2</sup>

平面図 S=1:50